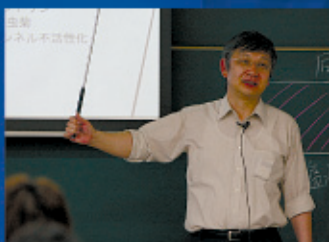


— 授業改善への取組 —

京都大学のFD

ファカルティ・ディベロップメント



2008年10月
京都大学「FD研究検討委員会」

2007-2008

FD

F D (ファカルティ・ディベロップメント)とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。

大学設置基準、大学院設置基準及び専門職大学院設置基準の改正により、大学院・専門職大学院では2007(平成19)年度から、学部では2008(平成20)年度から、「授業(又は研究指導)の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」と規定されました。

京都大学では、各学部・研究科単位でF D活動を行っており、高等教育研究開発推進センターではF D研究の全国的な拠点を目指してF D研究を行っています。また、2006(平成18)年12月には、研究科長部会の下に「F D研究検討委員会」が設けられ、①F Dに係る調査・検討、②研修会等の実施、③各部局が実施する活動への支援、④その他F Dに係る全学的な連絡・調整を行ってきました。

これまでの活動内容については、京都大学のホームページから「京都大学F D研究検討委員会」<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp>をご覧ください。

学内関係者向けには、Notes/Dominoの「本部情報などー教育ーF D(ファカルティ・ディベロップメント)」に、より詳細な情報があります。

相互研修型F Dの構築に向けて

F D研究検討委員会委員長
高等教育研究開発推進センター長 **田中 每実**

京都大学「F D研究検討委員会」は、平成18年12月に発足しました。翌年の4月には大学院設置基準が、翌々年の4月には大学設置基準が改正され、F Dが義務化されました。本委員会の設置は、それに先んじています。

本委員会の設置は、高等教育研究開発推進センターが18年7月に学部をもつ10の研究科を対象に実施した「教育改善・F Dについてのヒアリング調査」によって、大きく促されました。この調査の結果、京大の各研究科が、F Dと銘打つことはなくとも実質的にはさまざまなF D活動を展開していること、さらに、できるなら支援が欲しいとの強いニーズをもっていることがわかったからです。F D研究検討委員会は、各研究科の実質的な活動実績を踏まえ、多様なニーズに応えるべく、発足したのです。

委員会の初年度には、今後の活動のありかたについて審議し、F D関連情報を共有するためのワーキンググループ(WG1)とF Dを企画し実践するワーキンググループ(WG2)とを

発足させました。いずれのWGも、各研究科で自生的に展開されている実質的なF D活動を支援することをめざしています。

これまでの活動で、WG1は、F D研究検討委員会のホームページを立ち上げました。またWG2は、「大学院生のための教育実践講座」と「学生による授業評価に関するワークショップ」とを開催しました。前者は、我が国で初めての組織的なプレF Dの試みとして、全国から注目を集めています。後者は、京大内の実質的F D活動の水準の高さを示したと同時に、各研究科の活動実績を語り合うこと自体がF Dを促進する強いきっかけであることを示しました。

京都大学は、F D研究検討委員会の活動を通じて、その組織理念である「自由の学風」にふさわしいボトムアップの相互研修型F Dのありかたを示してきました。これらの活動について忌憚のないご意見をいただき、お互いに、よりいっそう有意義なF D活動を展開したいものと考えています。



学部・研究科等におけるFD活動

1. 教育改革への取組

各学部・研究科等においては、カリキュラム改革や教育方法の改善への取組を積極的に推進しており、文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム、現代的教育ニーズ取組支援プログラム、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ、大学院教育改革支援プログラム、専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム、がんプロフェッショナル養成プラン、社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム、今年度からの質の高い大学教育推進プログラム、大学病院連携型高度医療人養成推進事業等の教育改革支援プログラムに毎年応募し、数多くの取組が採択されています。

こうした教育改革支援プログラムへの応募の過程を通じて、学生の理解を深め、授業内容や方法を改善するための組織的な取組を不断に行っています。

学内関係者向けには、Notes/Dominoの「本部情報などー教育ー補助金・委託事業」に、より詳細な情報があります。

教育改革支援プログラム(教育GP)等取組状況

2008.9 教育推進部

研究科名	プログラム名	取組名	期間(年度)																		
			15	16	17	18	19	20	21	22	23	24									
教育学研究科	魅力GP	理論・実践融合型による教育学の研究者養成																			
	大学院GP	臨床の知を創出する質的に高度な人材養成 -京大臨床の知創出プログラム-																			
法学研究科	専門職GP	実践的理論教育高度化プロジェクト																			
	専門職GP	実務基礎教育の在り方に関する調査研究(共同)																			
	専門職GP	高度理論教育を目的とした教育改善の取組																			
	専門職GP	実務科目等の内容の明確・標準化の調査研究(共同)																			
	専門職GP	法科大学院コア・カリキュラムの調査研究																			
医学研究科	専門職GP	臨床研究者養成プログラム																			
	魅力GP	横断型系統的医学研究キャリアパス形成																			
	現代GP	新しい蘇生教育の広域展開																			
	大学院GP	共通・分野別教育統合による医学研究者育成																			
	がんプロ	高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成(共同)																			
薬学研究科	魅力GP	生命・化学情報に基づく融合創業者養成 (ファーマコインフォマティクスを基盤とした創業者養成)																			
	医療人GP	先端医療の育・創業者を先導する薬剤師育成【学部】																			
	大学院GP	実践的創業者養成プログラム(生命と共同)																			
	サービスイノベーション	ユビキタス健康社会の最新ニーズに対応した実践型人材育成【学部】																			
工学研究科	現代GP	国際連携による地球・環境科学教育 -アジア地域の大学との同時進行型連携講義の構築と実践-																			
	魅力GP	化学教育トリニティ (次世代化学を担う人材育成のための国際連携大学院の形成)																			
	大学院GP	インテック・フュージョン型大学院工学教育 -専攻融合・教育課程連携によるフュージョン型大学院工学教育-																			
	理数学生応援プロジェクト	グローバルリーダーシップ工学教育プログラム【学部】																			
エネルギー科学研究科	魅力GP	学際的エネルギー科学研究者養成プログラム																			
アジア・アフリカ地域研究研究科	魅力GP	臨地教育研究による実践的地域研究者の養成																			
	大学院GP	研究と実務を架橋するフィールドスクール -社会に貢献するアジア・アフリカ地域専門家の養成コース-																			
情報学研究科	魅力GP	社会との協創による情報システムデザイン (フィールド重視の情報技術(IT)大学院教育プログラムを目指して)																			
	魅力GP	シミュレーション科学を支える高度人材育成																			
生命科学研究科	魅力GP	生命科学キャリアディベロップメント																			
地球環境学舎	派遣型高度人材育成	大学院地球環境学舎インターンシップ																			
経営管理教育部	社会人の学び直し	キャリア女性の再チャレンジ =起業を支援する短期集中教育プログラム																			
	社会人の学び直し	会計専門職の学び直しを支援する短期集中教育プログラム																			
	サービスイノベーション	「サービス価値創造マネジメント」教育プログラムの開発																			
	専門職GP	国際的競争力のある金融・会計職業人育成																			
医学部附属病院	大学病院連携型	マグネット病院連携を基盤とした専門医養成 -大学病院とマグネット病院との機能的連携を基盤とした高度医療人材養成プラン-																			
高等教育研究開発推進センター	特色GP	相互研修型FDの組織化による教育改善																			
高等教育研究開発推進機構	特色GP	外国語教育の再構造化 -自律学習型CALLと国際的人材養成-																			

2. 学生による授業評価

学生による授業アンケート(授業評価)は、全学共通教育及び全10学部で、それぞれの特徴に応じた方式で実施しています。

また、大学院レベルでも実施している研究科があります。

各学部の実施状況については、FD研究検討委員会主催の授業評価ワークショップ等で情報交換することを通して、全学的に共有しています。

全学共通科目に関する学生アンケートでは、科目による差異はあるものの、70%以上がほぼ満足という評価を得ています。また、学部専門科目に関するアンケート結果では、体系的、知的魅力、有益度、理解度への配慮、自発的学習の促進、教員の熱意等が学生により評価され、学生の目から見ても、概ね教育の成果は上がっていると評価されています。

授業アンケートの結果は、各学部の教授会や研修会等で報告されたり、担当教員個人にフィードバックされており、組織的な教育改善や教員の自己啓発の基礎資料として活用されています。

また、報告書として学内外に配布したり、ホームページで公開している学部もあります。

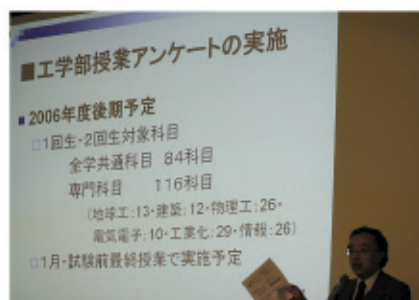
学部によっては、

- ①在籍する学生を対象に、授業評価とは別に、教育課程・方法や学習支援体制を聞くアンケート
 - ②卒業年次の学生を対象に、教育内容の満足度や学習成果を振り返る設問を入れたアンケート
 - ③卒業生を対象に、教育内容の満足度や学習成果を振り返る設問を入れたアンケート
- 等を実施しており、いずれも教育改善に有効に活用しています。



FD研究検討委員会のホームページ <http://www.fd.kyoto-u.ac.jp/fd>内の「みんなで考えるFD」に、各学部・研究科等の自己点検・評価報告書から教育関連部分を掲載しています。

3. 工学部における授業改善



工学部では、2000(平成12)年度に新工学教育プログラム実施検討委員会が発足し、2000(平成12)～2002(平成14)年度まで、ディベート型による工学部FDシンポジウムを実施しました。この取組は、日本工学教育協会の工学教育賞において、文部科学大臣賞を受賞しました。

2004(平成16)年度には「相互研修型FDの組織化による教育改善」が文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に採択されたことを受け、工学部と高等教育研究開発推進センターとの連携により、大規模な授業アンケートを実施し、その分析結果を工学部の授業改善・カリキュラム改善に役立てています。

2005(平成17)年度から開催されている「工学部教育シンポジウム」では、工学部授業アンケートの結果・分析の報告、所属教員からの発表「私の授業アンケート結果を受けてー」等を行っています。4回目は2008(平成20)年12月10日に開催します。

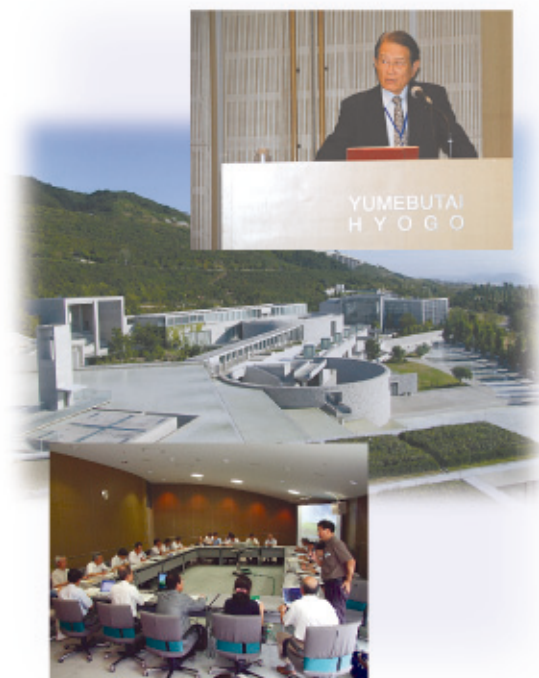
このシンポジウムには全学から参加することができます。

4. 全学教育シンポジウムの開催

総長、役員、教職員約200～250名が1泊2日の合宿で、本学の教育に関する議題について討論を行う「全学教育シンポジウム」が1996(平成8)年度から、ほぼ毎年開催しています。

2007(平成19)年度の第11回までに、延べ2,000名以上の教職員が参加しており、全学の教職員のFD、SD(スタッフ・ディベロップメント)のよい機会となっています。

特に、2000(平成12)年度は「京都大学における教育評価」、2001(平成13)年度は「京都大学における教育評価(授業評価・成績評価等)の在り方」をテーマとし、活発な議論が交わされました。



全学教育シンポジウム開催一覧

日 程	場 所	主 題	テ ー マ		参 加 者		
			主	副 (分科会テーマ)	計	教員	事務職員
第1回 H.8.28 ～8.29	比叡山国際観光ホテル	全学共通科目をめくって		・一般教育科目の内容、学生集団の変化 ・語学教育 ・学生の質の変化、教育上の難しい点 ・教養教育とは何か ・全学共通科目の具体的な問題点	201名	185名	16名
第2回 H.9.8.19 ～6.20	比叡山国際観光ホテル	教養教育について		・A群科目について ・B・D群科目について ・C群科目について ・人間形成と少人数セミナーについて	201名	186名	15名
第3回 H10.6.20 ～6.21	ラフォーレ豊原	学部教育から見た教養教育について	学部教育から見た教養教育について	・少人数セミナーについて ・理系系の教養教育と基礎科目で何をどのように教育するのか ・外国語教育に何を求めるのか ・新しい教養教育のあり方について	197名	182名	15名
第4回 H12.6.30 ～6.31	大津プリンスホテル	京都大学における教育評価	京都大学における教育評価	特にテーマは設定せず、「京都大学における教育評価」をテーマに討論	125名	102名	23名
第5回 H13.6.31 ～9.1	大津プリンスホテル	京都大学における教育評価(授業評価・成績評価等)の在り方	京都大学における教育評価(授業評価・成績評価等)の在り方	テーマ：教育実態とその改善 ・文系から見た全学共通科目の現状 ・理系から見た人文・社会・外国語教育の在り方 ・学生による教育評価 ・ファカルティ・ディベロップメントの在り方	176名	149名	29名
第6回 H14.6.30 ～6.31	大津プリンスホテル	新しい教養教育の在り方—基本理念・実施機構・教育評価—	新しい教養教育の在り方—基本理念・実施機構・教育評価—	・本学基本理念の教育における実現に向けて ・高等教育研究政策推進機構の発足とその運営 ・採択・授業評価とファカルティ・ディベロップメント(FD) ・全学共通教育のキャリアキュラム ・教育の達成度の評価—「京都大学卒業」とはなにか—	240名	207名	33名
第7回 H15.9.5 ～9.6	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路		京都大学における教育の「ミニマムリクワイアメント」をどう考えるか		240名	205名	35名
第8回 H16.9.9 ～9.10	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路	京都大学における教育の「質の保証」とは—教育の改善と評価の視座—	京都大学における教育の「質の保証」とは—教育の改善と評価の視座—	・学部教育における教育の達成度はなにか(文系学部の場合) ・学部教育における教育の達成度はなにか(理系学部の場合) ・教養教育の質の保証とそのためのシステム—全学共通制は可能か— (報告分科会)国際交流の促進による国際的人材の育成	242名	210名	32名
第9回 H17.9.1 ～9.2	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路	学部教育、大学院教育の質の改善と自己点検・評価	学部教育、大学院教育の質の改善と自己点検・評価	・学部専門教育、全学共通教育のリエゾン—理系の場合 ・学部専門教育、全学共通教育のリエゾン—文系の場合 ・2006年問題を視野に入れた教育課程の改善 ・学力差の縮小にどう対応するか ・学部教育、大学院教育の自己点検・評価に向けて ・研究評価をどう考えるか	229名	199名	30名
第10回 H18.9.14 ～9.15	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路	責任ある教育体制とは何か—京都大学における教育の将来像を問う—	責任ある教育体制とは何か—京都大学における教育の将来像を問う—	・研究所、センターの教育参画に向けて—教育は権利が義務か?— ・理系教育における6年一貫教育の実現は?—理系における基礎教育科目と専門科目の融合— ・文系教育におけるA群科目の意味は? ・職員の教育支援の在り方は?	240名	193名	47名
第11回 H19.9.6 ～9.7	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路	京都大学における教育の将来像を問う—第1期中期目標の着実にに向けて学部、大学院教育の現状と課題を考察する—	京都大学における教育の将来像を問う—第1期中期目標の着実にに向けて学部、大学院教育の現状と課題を考察する—	・白学白書を基幹とする京都大学の教育の現状と課題—文系学部、研究科における新しい教育のあり方を探る— ・白学白書を基幹とする京都大学の教育の現状と課題—理系学部、研究科における新しい教育のあり方を探る— ・学部教育における研究科、センターが果たすべき役割を探る ・京都大学における英語教育の現状と課題—グローバル化社会における英語教育のあり方を探る— ・学部教育における「国際教育プログラム」の現状と課題—世界的な教育、研究拠点としての国際交流のあり方を探る—	233名	200名	33名
第12回 H20.9.12 ～9.13	兵庫県立淡路夢舞台国際会議場、ウェスティンホテル淡路	京都大学における教育の現状と将来を考察する—第1期から第3期へ向けて—	京都大学における教育の現状と将来を考察する—第1期から第3期へ向けて—	・全学共通教育の現状と課題について ・本学の教育の国際化に向けて ・教育における研究所、センターの役割について ・これからの職員の役割に	262名	211名	51名



高等教育研究開発推進センターにおけるFD研究

高等教育研究開発推進センター(以下「センター」)は、設立以来、「相互研修型FD」を理念として活動を進めてきました。

「相互研修型FD」とは、それぞれに固有の文脈に埋め込まれた自律的な教員・組織が、相互に影響し、協働しあいながら、教育する集団として形成されていくことをめざすものであり、従来わが国に見られがちだった、啓蒙型・操作型のFDとは対比的な考え方です。ここでいう相互性には、教員-学生間の相互性、教員間の相互性、組織(部局・大学)間の相互性などが含まれています。

グローバル化時代・全入時代をむかえたわが国の大学が、相互に連携しながら新たな教育課題に対応していくことを支援するため、センターでは、2008(平成20)年度から文部科学省の支援を受け「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」プロジェクトを進めており、学内・地域・全国・国際という4つのレベルでの相互研修型FD拠点の形成をめざしています。



1. FD研究検討委員会の支援

センターは、これまでの研究成果を活かして、全学委員会であるFD研究検討委員会の諸活動を全面的に支援しており、学内での相互研修型FD拠点の形成に取り組んでいます。

2. 関西地区FD連絡協議会の設立



全国に先駆けて関西地区の大学及び短期大学が連携し、教育改善・FDを推進することを目的として、2008(平成20)年4月に「関西地区FD連絡協議会」が設立されました(<http://www.kansai-fd.org>)。京都大学は代表幹事校として、中心的役割を担っており、地域レベルでのFD拠点形成を支援しています。

2008(平成20)年7月現在、関西地区の大学・短期大学の約半数にあたる99大学・短大が加盟するという大規模な組織となっており、FDの共同実施、情報支援、連携企画などを進めています。

3. 大学教育研究フォーラムの開催

全国レベルでのFDネットワーク形成のための取組として、センターでは、毎年3月に「大学教育研究フォーラム」を開催しており、2008(平成20)年度には15回目を迎えます。

毎年、全国から400～500名の大学教職員が集まって、「教育評価」「カリキュラム」「授業研究」「FD・授業公開」「e-Learning・遠隔教育」などのテーマで研究・実践交流を行っています。



大学教育研究フォーラム



4. 大学生研究フォーラムの開催

全国レベルでのFDネットワーク形成のための新たな取組として、2008(平成20)年度から、センターと財団法人電通育英会との共催により、「大学生研究フォーラム」を開催します。

(<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/forum/>)

このフォーラムでは、現代大学生の姿を正確に把握した上で、現代社会を力強く生きていける学生を育てるために、正課・正課外教育、キャリア教育に求められている課題は何かを包括的に検討することをめざしています。

5. 国際シンポジウムの開催

センターでは、国際的なFDネットワークの形成に向けて、FDの国際連携も進めています。

その一環として、2009(平成21)年1月24・25日には京都大学において、「Future of Faculty Development in Japan: Building the Core in Faculty Development」をテーマに、基調講演と3つのセッションからなる国際シンポジウムを開催します。

センターの活動の詳細については、高等教育研究開発推進センターのホームページ

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>を参照してください。

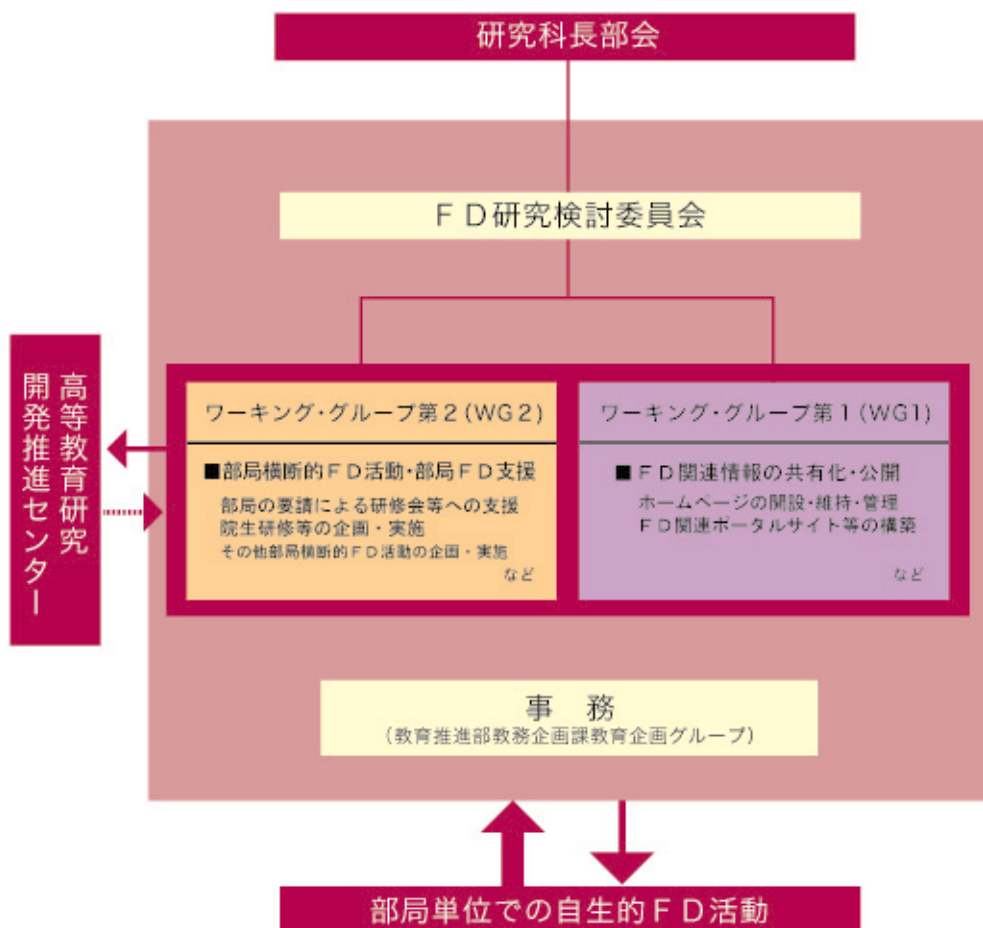
FD 研究検討委員会の活動

FD 研究検討委員会は、研究科長部会の特別委員会として、2006(平成18)年12月に設置されました。委員会は、FDに係る次の業務を行うこととされています。

- (1) 調査・検討に関すること。
- (2) 研修会等の実施に関すること。
- (3) 各部局が実施する活動への支援に関すること。
- (4) その他全学的な連絡・調整に関すること。

同委員会では、FD 関連情報を共有するためのワーキンググループ(WG1)とFDを企画し実践するワーキンググループ(WG2)の下で具体的な活動内容を検討しています。

FD 研究検討委員会組織図





委員会の開催状況

	開催日時	議 題	
第1回	2007年2月7日	①委員長の選出について ③その他	②FD研究検討委員会について
第2回	2007年6月7日	①教育改善等調査結果について ③その他	②委員会の検討課題について
第3回	2007年10月10日	①ワーキンググループの進捗状況と今後の作業について ②その他	
第4回	2008年3月21日	①平成19年度事業報告について ③その他	②平成20年度事業計画について
第5回	2008年6月30日	①平成20年度活動計画について ③その他	②「京都大学のFD(ファカルティ・ディベロップメント) 2007-2008~授業改善の取組~」の作成について

1. 公開授業・検討会

公開授業・検討会は、普段の授業の一コマを公開し、関心のある教員が傍聴する「公開授業」と、当該授業のねらいや進行方法について振り返り、よりよい授業について互いに考え合う「検討会」との2部構成で実施しています。

これまで高等教育研究開発推進センターの主催で年4回開催されてきましたが、2008(平成20)年度からはFD研究検討委員会が主催し、全学的な参加を呼びかけています。

2008年5月8日

第1回公開授業 全学共通科目B群「生活と環境の化学」 山本行男 人間・環境学研究科教授

講義は普段「密室」状態で受講生だけを相手にして、どうしても独りよがりになりがちです。公開授業では新鮮な緊張感があり、その時間を大事にしようとモチベーションも上がりました。

公開授業後の検討会では、基礎教育専門委員会・化学部会での授業内容の審議と、個々の授業の進め方の議論の関係が話し合わせ、きわめて内容の濃いものでした。



参加者の声

大塚雄作
高等教育研究開発推進センター教授

私も全学共通科目で文系の学生にやや理系的な内容を講義することがあり、その難しさを実感しているだけに、山本先生が、塩の精製の歴史的な流れを盛り込んだり、それぞれの時点での課題をなぜ解きのように取り上げて、アニメなども利用してわかりやすく展開されていたのはとても参考になりました。

学生も、化学への何らかの繋がりが得られたのではないかと思います。

2. 授業評価ワークショップ

授業評価ワークショップは、各部局等で実施されている授業評価(授業アンケート)の状況につき、情報交換の機会を持つことを通して、それぞれの部局の実状に応じた授業評価のあり方を探るきっかけとするため、2007(平成19)年11月に初めて開催しました。

授業評価の目的、実施体制、実施方法、実施結果、結果の活用状況等について9つの研究科・専門職大学院から情報提供がなされた後、授業評価に関わる課題等が話し合われました。



3. 大学院生のための教育実践講座

大学教員を目指す本学の大学院生を対象とした「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」は、いわゆるプレFDと位置付けられる取組で、全国的にも数少ない取組です。

実践講座のプログラム全てに参加した院生には、総長名の修了証が授与され、就職に向けての1ステップとなります。

2005(平成17)年度から高等教育研究開発推進センターの主催で実施されてきましたが、第3回目の2007(平成19)年度からはFD研究検討委員会が主催しています。

2008(平成20)年度は、新たにBasic(初参加者向け)とAdvanced(本講座参加経験者・大学授業経験者向け)の2講座に分け、8月5日(火)時計台記念館において実施しました。



 大学院生のための教育実践講座 参加状況

年度	募集定員	参加者数
2007年度	60名	31名
2008年度	Basic 40名程度 Advanced 20名程度	Basic 45名 Advanced 14名

◆ 大学院生のための教育実践講座2008 プログラム

BASIC

- 9:45～ 受付
- 10:00～ 開会式 **挨拶**
京都大学理事 東山 紘久
趣旨とプログラムの説明
医学教育推進センター長 平出 敏
- 10:20～ セッション1 **グループ討論1**
「大学授業をどう思うか(自己紹介)」
- 11:20～ セッション2 **ミニ講義1**
「大学授業の現在」
高等教育研究開発推進センター教授 大塚 雄作
- 11:45～ セッション3 **ランチと自由討論**
- 13:00～ セッション4 **グループ討論2**
「大学授業で教師に求められるもの」
- 14:00～ セッション5 **ボディワーク**
「他者とのつながり・自分とのつながり」
京都文教大学教授 濱野 清志
- 15:40～ 休憩
- 15:50～ セッション6 **ミニ講義2**
「大学授業の課題」
高等教育研究開発推進センター准教授 酒井 博之
- 16:15～ グループ討論整理
- 16:30～ セッション7 **全体討論**
「大学で教えるために」
- 17:30～ セッション8 **ミニ講義3**
「大学で教えるために」
高等教育研究開発推進センター長 田中 毎実
- 17:50～ 閉会式 **挨拶 修了証授与**
京都大学理事 東山 紘久
- 閉会式終了後～18:30 **情報交換会**

ADVANCED

- 9:45～ 受付
- 10:00～ 開会式 **挨拶**
京都大学理事 東山 紘久
趣旨とプログラムの説明
医学教育推進センター長 平出 敏
- 10:20～ セッション1 **全体討論**
「教える側からみた大学授業(自己紹介)」
- 11:20～ セッション2 **ミニ講義1**
「大学授業の現在」
高等教育研究開発推進センター教授 大塚 雄作
- 11:45～ セッション3 **ランチと自由討論**
- 13:00～ セッション4 **ミニ講義2**
「大学授業をどう創るか」
高等教育研究開発推進センター教授 松下 佳代
- 13:30～ セッション5 **模擬公開授業 検討会**
- 15:30～ セッション6 **テーマ別討論**
(コースデザイン、授業技術、評価など)
- 17:00～ セッション7 **全体討論**
- 17:50～ 閉会式 **挨拶 修了証授与**
京都大学理事 東山 紘久
- 閉会式終了後～18:30 **情報交換会**

4. 学外向けホームページ、学内向けポータルサイトの作成

京都大学ホームページの「教育」の中に「京都大学FD研究検討委員会」のページを2008(平成20)年5月から開設しました。
(<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp>)

【HP掲載内容】

- (1)委員会概要
(委員長メッセージ、組織、規程、活動)
- (2)みんなで考えるFD
 - ①部局の考えるFD
(自己点検・評価報告書の抜粋)
 - ②教員の取り組み
- (3)教員の広場
- (4)イベントカレンダー
(学外イベント、学内イベント)

学内向けポータルサイトであるNotes/Dominoの「本部情報などー教育」に「FD(ファカルティ・ディベロップメント)」の項を設けて、より詳細な情報を掲載するようにしています。



2008(平成20)年度

FD研究検討委員会

主催事業◎・共催事業○・関連事業カレンダー

4月26日(土)	関西地区FD連絡協議会設立総会	芝蘭会館
◎ 5月8日(木)	公開授業・検討会第1回「生活と環境の化学」	吉田南 共北25
◎ 6月16日(月)	公開授業・検討会第2回「英語ⅡA(E2P02)」	吉田南 共西02
8月2日(土)	大学生研究フォーラム	時計台記念館
◎ 8月5日(火)	大学院生のための教育実践講座2008	時計台記念館2階
8月22日(金)	高等教育研究開発推進センター:公開研究会	吉田南 共106
9月12日(金)	全学教育シンポジウム	兵庫県立淡路夢舞台
~13日(土)	「京都大学の教育の現状と将来を考察する -第Ⅰ期から第Ⅱ期へ向けて-」	国際会議場
11月	関西地区FD連絡協議会シンポジウム【予定】	
◎ 11月26日(水)	公開授業・検討会第3回「教育史概論Ⅰ」	教育学部320
○ 12月10日(水)	工学部教育シンポジウム	桂キャンパス
◎ 1月20日(火)	公開授業・検討会第4回「診断治療学総論」	臨床第1講堂
1月24日(土)	高等教育研究開発推進センター:国際シンポジウム	芝蘭会館
~25日(日)	Future of Faculty Development in Japan -Building the Core in Faculty Development-	
3月19日(木)	関西地区FD連絡協議会ワークショップ【予定】	
3月20日(金)	高等教育研究開発推進センター:大学教育研究フォーラム	
~21日(土)		

各行事の詳細については・・・

京都大学FD研究検討委員会

<http://www.fd.kyoto-u.ac.jp>

京都大学高等教育研究開発推進センター

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

関西地区FD連絡協議会

<http://www.kansai-fd.org>

【事務担当】

京都大学教育推進部教務企画課

電話:075-753-2430

FAX:075-753-2485

メール:ksui-kkikaku-kyom02@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



京都大学のFD

